

# あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター  
住所:名古屋市東区泉 1-13-34  
名建協 2階  
TEL:052-971-2030  
FAX:052-971-2050  
開館:月曜～金曜 10時～17時



「お寺で交流相談会」の会場（東別院・対面所）をお借りするなど、ご協力いただいた東別院の本堂

## 「お寺で

## 交流相談会」(3ページ)



「福島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」と災害復興支援の募金箱（同実行委員会、災害支援ボランティアによる）

### 募集中



- ☆『あおぞら』編集委員：「私のお気に入りスポット」や「私のおすすめの一冊」、「我が家の自慢のレシピ」等の取材・投稿
- ☆新聞スクラップのボランティア：定期便に同封の東北の地元新聞(『河北新報』・『福島民報』)のスクラップ作業
- ☆表紙の絵・写真：お子さんの絵、または趣味の写真など

### 新型コロナウイルス感染症が心配な時の看護師による

### 一般相談窓口 愛知県感染症対策局感染症対策課

電話：052-954-6272（9：00～17：30 土・日・祝も毎日）

### 愛知県・新型コロナウイルス感染症「県民相談総合窓口」

(コールセンター)

電話：052-954-7453（9：00～17：00 土・日・祝も毎日）

### 《もくじ》

- P1.表紙：東別院の写真
- P2. 岩手県・宮城県 気軽にお茶飲み交流会
- P3. お寺で交流相談会（東別院）
- P4～5. 寄稿/Sさんご夫妻から聞いた岩手県陸前高田市の方言の話
- P6. 新型コロナウイルス感染症情報  
日本ウクライナ文化協会・避難者「刺しゅうサロン」
- P7. 「おすすめの一冊」①、②
- P8. イベント情報、さっちゃんのレシピ、編集後記

## 「岩手県・宮城県 気軽にお茶飲み交流会」

10月2日(日)に東海市しあわせ村保健福祉センターで、「岩手県・宮城県 気軽にお茶飲み交流会」(同実行委員会主催、愛知県被災者支援センター共催)が開かれ、8世帯8名の参加者がありました。

コロナ感染で対面での開催の制約のある中だからこそ、長年なじみのある人との交流が大切だと感じられた交流会でした。和気あいあいとした空気の中で近況を語り合い、この11年間を振り返ってしみじみ考える事をうなずき合い、また新しい生活の始まった人など、その人の人となり伝わってきました。

昼食では、5月の交流会に続き「絆カフェ」のボランティアの方々の調理が一部可能になり、芋煮などを頂いていると、「やっぱり手作りはおいしいねえ!」という声があちこちから聞こえました。

### <参加者アンケートから抜粋>

交流会でいろんなことがやれて、また皆さんの顔が見られて、良かった(Tさん)

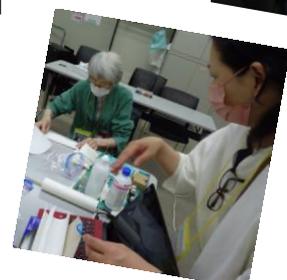
オーボエの演奏(日福大卒業生の近藤さん)が聞いて良かった。久しぶりに会えた人もいて、来てよかった(Mさん)

昼食の故郷の芋煮は、とてもうれしく、苦心して作ってくださった皆さんに感謝しております。皆さんの力を借りてがんばっております。次の時もまた会えたらいいなと思いました(Nさん)

駅からの坂道がきつくなってきました。外は暑そうだったので、屋内のアロマに参加させていただき、お土産(手作りアロマ除菌シート)ができました(Mさん)

おいしいお弁当をごちそうになり、楽しい一日を過ごさせていただき、とても感謝しています(Nさん)

参加者の生の声は、とても心に沁みました。11年経っても、決して忘れることのない体験者のことを、私たちは決して忘れてはならないと思います(番外:相談対応専門家)



## お寺で交流相談会

10月30日(日)に、東別院(名古屋市)の会場をお借りして「お寺で交流相談会」を開催しました。早川医師他(民医連)のご協力を得て、甲状腺エコー検診(簡易版)も行われ、申し込まれたご家族が密を避けて、随時やって来られました。皆で「お香づくり」、「念珠づくり」、「メッセージカード作り」を楽しみました。



交流相談会には、福島県名古屋事務所からも職員の方がかけつけて…



東別院のボランティアさんにオリジナル念珠の作り方を教えていただき…



私だけの念珠の出来上がり！



甲状腺エコー検診は、医師の丁寧な説明と在宅保健師のサポートで、安心…



仲よし姉弟が微笑ましい！



換気をしながら、楽しく、熱中…

### 《参加者の声より》

○検査が久しぶりに受けられて良かったです。おしゃべりすぎて、落ち着くように言われました(笑い)。

○久々に避難者向けの交流会に参加させていただきました。子どもも大きくなっ

ていますが、上手に誘っていただき、念珠づくりに参加出来て楽しかったです。ほっこりした気持ちになりました。

○交流会開催、ありがとうございます。もう11年が経ち、このような会がどんどん減っていて、無くなってしまわないか、不安になります。(中略) 今後もよろしくお願いします。



ハーブのお香作り



ウクライナと福島の子どもたちへ贈るメッセージカードを作りました。

○今天 甲状腺検診 安心 手串制作有意思

○お香や念珠づくり、どちらも楽しかったです。甲状腺検査も、今はここでしか受けられないので、とても助かります。いつもありがとうございます。

○普段の生活では経験したことがない「温かく迎えてもらえる」という経験をさせてもらったことに、感謝しています。いつかどこかで誰かにお返しできる人になって欲しいなあと思います。

## 寄稿// 「陸前高田の方言」の聞き取り

大学のボランティア活動で東北・岩手県に何度か足を運んでいる学生の岡田彩花（名城大学）さんが、9月半ば、陸前高田市から名古屋市西区に避難されているSさんご夫妻に聞き取り調査を行なわれ、その報告を『あおぞら』にも寄稿していただきました。

### 【復興支援で陸前高田へ】

私は大学の活動で、東日本大震災後の復興支援に携わっていて、昨年度は岩手県陸前高田市へ行きました。そこで見た景色、出会った人々、学んだことなどは私の心を大きく動かし、陸前高田のことをもっと知りたいと思いました。

### 【『たかたの教科書』作り】

現在は、陸前高田の市民の手で『たかたの教科書』を作ろうという取り組みに参加しており、国語チームに所属し、陸前高田の方言や民話について調査しまとめています。陸前高田は遠く頻繁に通うことは難しいため、名古屋でもできることを探したところ、陸前高田から名古屋に避難されたSさんご夫妻から、被災されたご経験や陸前高田の方言などのお話をお聞きする機会を頂きました。

### 【かつての高田松原、街の風景、お祭り】

Sさんは高田の写真集も持ってきて下さり、初めにかつての高田松原や街の風景、お祭りの写真などを見せて頂きました。白い砂浜と一面に広がる松林。「松林には遊歩道があってね、よく散歩したのよ」。地区ごとに個性のある飾り付けをした山車が街を練り歩く〔うごく〕七夕祭り。「その時期になると、みんな集まって総出で準備をしたんだよ。けんか七



高田松原津波復興祈念公園(陸前高田市観光サイトより)

夕と合わせて、一年で一番盛り上がる祭りだったさ」。

そんな思い出も人々の暮らしも、津波で全て流れてしまったと思うと、本当に胸が締め付けられました。

### 【震災当時から現在まで】

Sさんご夫妻は、家族の入院している病院へ行かれていたため、盛岡で地震に遭われました。奥様は、「陸前高田に帰るのも苦労してね。どれだけ時間が掛かったかわからない。ガソリンを何度も入れなきゃいけないし、ガソリンスタンドも大行列だし。途中通行止めで進めなかったけど、夜中に解除されて進むことができた。陸前高田に戻った時に山の上から見たのは、一面の水だった…。その後水が引いて



「うごく七夕まつり」と「けんか七夕まつり」(陸前高田市観光サイトより)

から、何かあるんじゃないかって思って毎日見に行  
ったけど、ほんとに何にも無くなってた。唯一置物  
は見つけたけど、持って帰る気にもなれなかったね。  
後は、自分の服が船に引っ掛ってるのも見つけたけ  
ど、そのままにしてきた。持って帰ったって帰る家  
も、飾る場所もないんだもの。話してたら、なんだ  
か思い出して来ちゃった。でもあの時から11年も  
経ったのねえ。帰りたいていう思いもあるけど、  
年齢も考えると無理かなあ…」とおっしゃいました。

旦那様は、「何もかも失ったけど、逆に吹っ切  
れたな。取り返したかったものなんて、挙げれば切  
りがないけど、どうしようもない。一からスタート  
するしかないなって。自分たちは震災のとき、子育  
ても終わって、仕事も辞めた年金暮らしたから、  
正直困ることはそんなに無かった。もちろん嬉しく  
は無かったけど。娘達のいるところで暮らすこと  
になって、家族一緒に居られることになったのは、あ  
る意味幸せだって思うようにしたね」と話して下さ  
いました。

### 【雁月(がんづき)】

奥様は、「あなたが陸前高田のことを知りたいっ  
て聞いたから、作ってきたのよ」と、手作りのお菓  
子を持ってきて下さりました。「これは雁月(が  
んづき)って言ってね、冠婚葬祭みたいに家族が集  
まるときに食べるの。なんの味か分かる？黒糖よ。い



つも上にはごまと  
くるみに乗っける  
の。今日はこちら  
が手に入らなかつ  
たけど、くるみ  
あるととっても美  
しいのよ」

雁月は、ふっく  
らもちもちの蒸しパンのようなお菓子です。初めて  
食べましたが、どこか懐かしく素朴で、甘さも控え  
めなので、いくらでも食べられそうでした。旦那様  
は、「僕のも食べな！」と、ご自分の分まで差し出し  
て下さいました。陸前高田の方のおもてなしと心の  
温かさに触れ、私の気持ちも温かくなりました。

### 【陸前高田の方言】

旦那様からは方言レクチャーをして頂きました。  
「思い出してメモしてきたんだ」と、珍しい方言のク  
イズを出して下さいました。その中のいくつかをご  
紹介します。

- ・おだずなよ : ふざけるなよ
- ・しよすい : 恥ずかしい
- ・ほどる : 暑い
- ・あだりほどり : そこらへん
- ・かだる : 言う
- ・もぞい : かわいそう
- ・あばっせ : 行きましょう
- ・きゃっせん : 来てください
- ・はまらっせん : 仲間になろう

### 【「どうして高田？」 自問】

最後には、「縁もゆかりも無い陸前高田のこと、  
こんなに聞いて考えてくれて、ありがとう」と仰ら  
れました。確かにそうだけど、でも、それでも私は  
陸前高田に行きたいと思ってしまうのです。周りの  
人から「どうして高田なの？」とか、「なんで高田  
のことそんなに興味あるの？」とか聞かれることも  
あるけれど、答えは私も知りません。海と共にあり、  
海によって傷つき、そしてまた海に見守られ復興し  
ていく街に、あるいは困難を乗り越えて強く生きて  
いる人々に、惹かれるからでしょうか。

話を聞いていても、話をまとめようと書いてい  
ても、ところどころ、つい涙ぐんでしまいました。  
なんで泣きそうになるのか、どんな気持ちなのか、  
私自身はまだ上手く言葉で説明できません。実際を  
見ていない、話を聞いただけの赤の他人でさえこん  
な風だから、話して下さったご本人方はどれほどの  
思いだろうと思うと、申し訳なくもなります。それ  
でも話を聞かせて頂けて、私は本当に良かったです。  
そして「話して良かった」と言って頂けるよう、今後  
に繋げていけたらと思いました。当時や今に至るま  
での、避難した方の実際の思いを聞き続け、可能な  
限り陸前高田へ行き、もっと陸前高田のことを知り  
たいと思います。(岡田彩花)

## 新型コロナウイルス感染症陽性者と診断されたら

発生届の対象とならない64歳以下の軽症者等の方に医療機関からリーフレットが配布され、そのリーフレットから各種サービスを申し込むことができます。なお、4類型（①65歳以上、②入院を要する方、③重症化リスクがあり、かつ新型コロナ治療薬又は酸素投与が必要な方、④妊婦）に該当する方等へはSMSが送られます。



愛知県では、陽性者に↑の図の流れに沿って、情報提供・サービス案内をしています。

愛知県新型コロナウイルス感染症対策サイト⇒



### ウクライナからの避難者の「刺しゅうサロン」

ウクライナから避難されている女性たちの「刺しゅうサロン」が、日本ウクライナ文化協会(JUCA)の主催で開催されているのをセンター事務所の近くで見かけます。

ウクライナでは、学校の廊下にも刺しゅう作品が展示されて、子どもから大人まで、伝統の刺しゅうに取り組み楽しんでいます。



日本へ避難されている年配の女性たちを中心に、母国で親しんだウクライナの刺しゅうをデザインした小物を制作し、バザーで販売しています。その売り上げは、戦争で親を亡くした子どもたちを支援するために、本国へ贈られます。



太平洋戦争が終わる直前、満州の新京（長春）を出発、1年以上をかけて朝鮮半島を縦断し博多に帰るまでの逃避行が書かれています（『あおぞら』9月号の『私が生まれた頃、日本は戦争をしていた』（富田祥子さん筆）は、朝鮮半島からの引き揚げでした）。

引き上げ当時、藤原ていは27歳の母親で、6歳と4歳と乳飲み子を抱えての逃避行でした。何から何までもらさずに書かれています。こんなに食料がなくて、腹ペコで、冬の厳しい寒さの中で良く生きて帰られたと、どこまでも感心しました。特に、乳飲み子は「お乳しか命をつなぐことができない」という表現は、母乳が満足に出ない状況下、生きながらえたのは奇跡というほかありません。

初めは同じ会社の同僚が団を成していましたが、男性はほぼ全員途中から消えました。従って、団は女性と子どもばかりで、味方になったり敵になったり、独特の人間関係が詳しく書かれています。

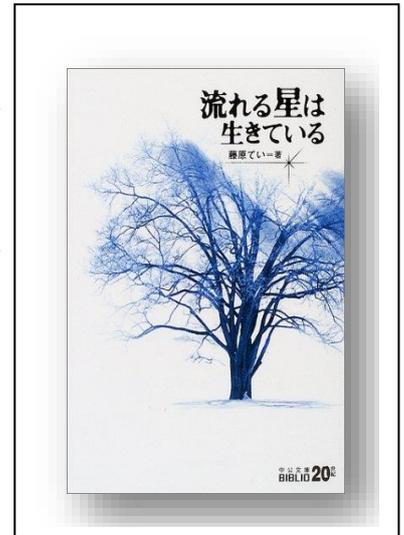
～～～ 一日も早くウクライナの戦争が停戦になることを願って！ ～～～（編集委員：瀧川裕康）

人間関係の中心は、何といてもぎりぎりの食料やお金のことばかりです。

日本に帰って、親族に会った瞬間から、こんなにもゆとりのある世界があるものなのか？ 読んでいる

今の私の世界に帰って来た！と、平和な生活の有難さに心から感じ入りました。

藤原ていは日本に引き揚げた後、長い間病床の身で、遺書を書きました。その遺書がこの本の元になったとのこと。ていの夫は新田次郎。丸1年間捕虜生活を経験しました。その地を訪れることはなく、彼の小説に引き上げの話はないらしい。その傷がどれほど深かったことが察せられます。



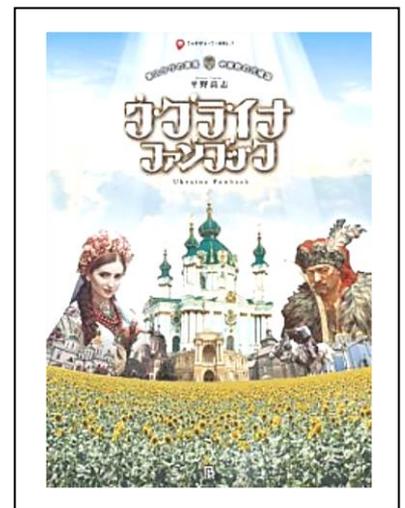
②『ウクライナ ファンブック』（平野高志著 合同会社パブリブ）

2月24日以来、ロシア軍に爆撃されているウクライナの街々をテレビで見ない日はないほどですが、本来「ウクライナはどんな国か」を知ることができるガイドブックです。著者は、キーウ在住の編集者・写真家。首都キーウを始め、西部の古都リヴィウ、黒海の港町オデーサ、東部の第二の都市ハルキウの他、各都市の教会や劇場、のみり豊かな大地など、どの写真もとても美しく、また美味しそうなウクライナ料理も地域ごとにたくさん紹介されています。

観光地だけではなく、ウクライナの歴史、文化、芸術、宗教、産業なども網羅されていて、この一冊でウクライナが分かります。私個人は、NGO活動と留学などで、9つの州・10都市などを訪れていて、懐かしい街の風景を見ながら、ミサイル攻

撃で破壊されていないことを祈るばかりです。東部の街へは行ったことがなく、この本が出版された2020年以前の破壊される前のハルキウやマリウポリなどの人々の生活の様子や美しい建物を見ることができ、悲しみのため息が出ます。

まだ停戦・平和が見えず、これら美しく、豊かな街や大地、人々の生活が、復興される時が一日も早く来ることを、犠牲になった多くの人々の命を思いながら、ひたすら願っています。（戸村京子）



【イベント情報】 \*開催・内容等が変更になることがあります。詳しくはチラシでご確認ください。

開催日	イベント名	内容（主催など）	会場
12/4(日) 10:00~15:00	濱田農園農作業体験交流会 「サツマイモ掘り」	6月に濱田農園で植えたさつまいもの収穫をします。コロナに注意して、昼食は芋煮汁等。	知多郡東浦町緒川の畑
12/11(日) 10:30~11:30	あおぞらカフェ・オンライン「雪塩アロマの入浴剤」	寒さを乗り切るための手作りアロマ入浴剤をつくります。 主催:あおぞらカフェ実行委員会	オンライン
12/17(土) ①11:00 開演 ②14:30 開演	マスクプレイミュージカル 「ジャックと豆の木」観劇と ミニ交流会	劇団飛行船マスクプレイミュージカルを楽しんだ後、交流します。	日本特殊陶業市民会館 フォレストホール (名古屋市)

🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

**さっちゃんのレシピ** 「ちくわと春雨の粒マスタード和え」(ピリッとおいしい!)

【材料】〈3~4人分〉ちくわ太め1本(細めなら2本)、春雨20g、もやし200g(1袋)、ニンジン6cm前後、キュウリ1/2本

【調味料】酢大さじ4、砂糖小さじ2、塩小さじ1/3、サラダオイル大さじ1、粒マスタード小さじ1と1/2

【作り方】

- ①ちくわは縦半分に切りそれを半分の長さに切りさらに細く切る。
- ②春雨は熱湯で戻して水にとり、水切りしてから食べやすく切る。

- ③もやしはサッと茹でて水を切る。
- ④ニンジンは細切りにして茹でる。
- ⑤キュウリは薄く切り、さらに細切にして塩を振り、しんなりしたら水分をしぼる。
- ⑥ ①②③④⑤を調味料で和え、器に盛る



※調味料で和える前に材料の水分をしっかり切らないと、味が薄くなる



《編集後記》

- ・最近、空気が澄んでいるので「月ってこんなにきれいだった??」と思う日が続く。11月8日の満月は皆既月食。さらに442年ぶりの天王星食とのこと。太陽、地球、月、天王星が一直線に並ぶ偶然、というより宇宙のロマン。もし天王星が月より大きく、もっと近い距離にあれば、「金冠天王星食が見られるのかな」なんて思うのは私だけ? (T.S)
- ・○良い天気 朝は寒い 昼暑い 着るもの迷って おしゃべりのネタ
- 馬場のぼる 満員の客 親子連れ 11匹の 猫面白し (刈谷市で馬場のぼる展を楽しむ)
- 売ってない 银杏小豆 探したよ 店に出るのは まだやや早い (T.H)
- ・小牧市の高校生の「平和学習」で、話をする機会を得た。ウクライナの「戦争の前と後」の写真を見てもらう。鮮やかな風景が灰色に変ってしまった。その後一緒に取り組んだウクライナの子どもたちを励ますメッセージカード作りで、若者の一人ひとりの優しさに触れ、私もとても癒された。 (T.K)